

部局名

農学部 海洋生物環境学科

担当:長野 直樹



テーマ

マサバを完全養殖する



最近、新しい養殖魚種として注目されているのがマサバです。マサバは青物の大様とも呼ばれ、食べる機会の多い馴染み深い魚です。

しかし、年々その漁獲量は減少し、“脂ののった鯖”の需要が急増していることから、安定的・持続的に生産可能な完全養殖の技術開発が望まれています。

1年中“脂の乗った鯖”を食べるための研究が日々進んでいます。



詳細内容はQRコードから確認できます

のうがく図鑑: <https://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/books/book-fishery/post-59.html>

マサバ完全養殖



マサバ養殖の完全養殖サイクル

これまでは天然で捕獲した稚魚を育てる養殖が主流でしたが、人工孵化させた仔魚を稚魚から成魚に育て、その親魚から卵を採って人工孵化させるサイクルを繰り返す完全養殖技術が開発されました。



マサバ親魚へのホルモン注射

マサバは人工飼育下では自然に卵を産まないため、ホルモン注射により排卵を促します。



マサバ親魚からの採卵

親魚の腹部をやさしく圧迫することにより卵を採集します。この卵にすばやく精子を混ぜ人工授精を行います。